



東京YMCA

2016 11 月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

芝浦アイランド

こども園／児童高
齢者交流プラザ

10周年

港区の「指定管理者」として 次期も運営決定

港区立芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ 館長

鶴 清忠



東京YMCAが芝浦での働きを始めて10年になります。およそ10年ほど前から日本の人口は減少し始めていますが、港区芝浦地域の人口は、この10年で2万9千人から5万人に増えました。港区全体の人口が18万から22万7千人と、約4万7千人増加していますが、その約半数の2万1千人がこの地域での増加でした。港区の試算では、人口増加の傾向は今後も続き、約10年後の2027年には30万人を超える見込みです。近隣の芝浦小学校の児童数はすでに1000人を超えており、およそ15年後には2000人を超え、45年後の2060年には17000人余りの児童が在籍すると予測されています。このような地域にあって、「芝浦アイランドこども園」には約200人の園児が在籍し、「芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ」(愛称「あいぶら」)の学童クラブには児童1300人が在籍。また日々利用している乳幼児親子と高齢者を含めた年間利用者は毎年延べ10万人を超えています。3年前には近隣に「芝浦学童クラブ」が新設され、今では約240人の児童が在籍しています。この10年間に、これらの施設に在籍した子どもたちや、「あいぶら」の利用者たち、そして日々送り迎えをした保護者や家族など何らかの関わりのあ

った方々の実数は、おそらく芝浦地域の人口の10%以上にのぼると考えられます。東京YMCAは、この地域で10年間に渡って活動したことにより、存在感を増し、地域コミュニティにおける信頼関係を築き上げつつあると実感しています。例えば、毎秋恒例の「あいぶらまつり」には約2000人が来場し、2000人を越えるボランティアの協力で50余りの店舗が並びます。町会・自治会、民生児童委員、商店会、小学校のPTA等々の働き、特に高齢者の活躍は目覚ましいものがあります。あたたか、YMCAのコミュニケーションセンターの行事に多くの会員が奉仕をされるような光景が芝浦で実現しています。こども園では、7時15

分から22時までの長時間保育を提供し、加えて、地域の子育て拠点として日曜・祝祭日も開園しています。また保護者の疾病時などに必要な日数のみ保育を提供する「一時保育」は、利用希望が多く、毎月の予約時間帯は電話が通じないとお叱りを受ける状況です。また月に一度、帰宅前の保護者とお子様と一緒にいたたく「ほっとするコーヒー屋さん」は、他の保護者や職員と気軽に話せる人気です。このような評判もあり、入園希望者の倍率は高い状態が続いています。これらの3つの施設は、乳幼児から高齢者までが日常的に触れ合うことができる施設として、相互に連携しながら運営されています。たとえばこども園の卒園児が学童

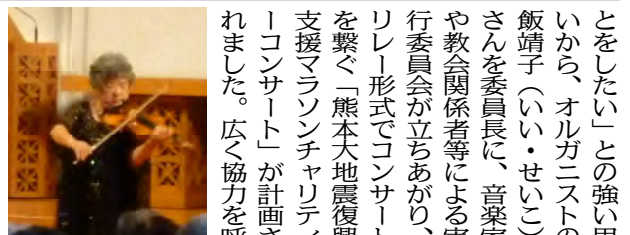
クラブに入り、その後も近所の児童館としてこの施設を利用する、そしてその成長を高齢者が傍らで見守る。そういった長期的な関係を続けることができる拠点として地域に定着してきています。これらの施設を運営する事業者は、定期的に区による公募と選考を経て指名されますが、「あいぶら」は来年度からの5年間、こども園は10年間、引き続き東京YMCAが運営することが決定しました。今後も長期的な関わりをもつことで、YMCA運動を積極的に推進することを願っています。

地域を活かし、地域に生かされるYMCA運動を、一人ひとりの成長に寄り添いつつ、芝浦の地で続けていきたいと願っています。

全19回開催 復興支援マラソンチャリティーコンサート



4月に発生した熊本地震。一瞬の内に多くの命が犠牲になり、多くの方が当たり前の日常生活を奪われました。全国のYMCAが支援活動に奔走する中、「私たちにできるこ



とをしたい」との強い思いから、オルガニストの飯靖子(いひ・せいこ)さんを委員長に、音楽家や教会関係者等による実行委員会が立ち上がり、リレー形式でコンサートを繋ぐ「熊本地震復興支援マラソンチャリティーコンサート」が計画されました。広く協力を呼

びかけたところ、続々と音楽家たちの手が挙がり、結果、当初の予想をはるかに凌ぐ19回ものコンサートが成立しました。さまざまなジャンルの実力派のプロ音楽家が無償で協力くださったことを、音楽大学の学生や自閉症のミュージシャンも共鳴してくださり、日本基督教団久我山教会をはじめ都内の教会やYMCAを会場に、質の高いコンサートが繰り広げられました。出演者自ら募

金箱を持って、さらなるチャリティー支援を呼び掛ける場面も多々ありました。最終日の11月11日(金)には、日本基督教団霊南坂教会(港区)にて2つのコンサートが開催されました。昼間の部は高名なヴァイオリニスト・黒沼ユリ子さんによるヴァイオリンとピアノのコンサート。この日登場したのは「津波ヴァイオリン」と呼ばれる、東日本大震災時の流木で作られたヴァイオリンでした。被災した故郷の記憶

や思い出を音色として語り継いでいこうと製作された楽器で、プログラム最後のシオスタコヴィツ「3つの二重奏曲」では、東北、そして熊本地震への祈りが込められた演奏が静かに会場を満たしました。夜の部は、「ガラコンサート」として、これまでのマラソンチャリティーコンサート出演者有志の活動のために用いられました。出演して下さった音楽家たち、その舞台を支える技術者たち、コンサートに足を運んで下さった方たち、そして献身的にコンサート運営を担

「やすかれ、わがころよ」(讃美歌21、532番)を出演者と会場全員で合唱し、会場の心が一つになりました。7月から11月の4カ月間にわたる全19回のコンサートで、延べ8000人を超える方が来場。益金総額185万9611円は、熊本YMCAを通して被災地の方々に支援する活動のために用いられます。出演して下さった音楽家たち、その舞台を支える技術者たち、コンサートに足を運んで下さった方たち、そして献身的にコンサート運営を担

【募金のお願い】熊本YMCAは現在、「木山支え合い仮設住宅センター」と阿蘇YMCAボランティアセンターを運営。今後も長期的に支援活動を行う予定です。引き続きの協力をお願いします。(2面「熊本だより」)(振込先)みずほ銀行 神田支店 普通1123669公益財団法人東京YMCA *お名前後に「クマモト」とお書き下さい

近年、全国YMCAで「指定管理者」として行政との協働(共同)事業を担うことが多くなってきた。行政の財的資源に、YMCAのノウハウが付加され、住民に質の高いサービスを提供していくのが指定管理者システムである。昨年、江東区児童・高齢者総合施設(グランチャ東雲)の第2期(2016-2020年)の運営事業者の公募・選考が行われた。一連の作業に携わった中で改めて、YMCAが運営する意義を熟考する機会を与えられた。そして指定管理者としてのYMCAの最大の強みは「コミュニティの創生」であるとの結論に至った。YMCAは青少年教育団体としてこれまで「地域コミュニティづくり」を推進してきた。行政政策でいうところの「街づくり」である。その意味で指定管理は、長年積み重ねてきたYMCAのノウハウが最大に生かされる現場ともいえる。▼グランチャ東雲では、第2期のコンセプトを「ふるさとプロジェクト」と名付け、地域の方々が自らのふるさとを思いだせるような街づくりを意識したプログラム提供を推進している。YMCAの使命と願いを行政政策と重ね合わせる協働を歩んでいる。(グランチャ東雲館長 口原恵美子)

■グランチャ東雲「ふるさと秋祭り」



恒例の移動動物園にはペリカンやハリネズミなども登場。子どもたちは大喜びでした。

祭りの運営は、利用者やワイズメンズクラブなど約100人がボランティアで担い、サンマ焼き・ホタテ焼き、カレー、パスタなどの本格的な模擬店や、各種のゲームコーナーで大活躍くださいました。昔あそびコーナーでは、利用者が作ったお手玉で子どもたちに遊び方を伝授するなど、地域のさまざまな方の関わりによって、この秋祭りが年々発展してきている様子が見られました。

また今回は、東日本大震災と熊本地震のための「チャリティー」も目的とし、東北や熊本の物産展を開催したほか、メッセージを寄せ書きして被災地に贈りました。

多くの方のご協力に感謝いたします。
(グランチャ東雲 由井卓哉)

■会員ソフトボール大会



「第33回オール東京YMCA・近隣YMCA会員ソフトボール大会」を10月10日、埼玉県出版健康保険組合大宮運動場で開催。15チーム、216人が参加しました。午前中は5ブロックに分かれての予選リーグ、午後からは各ブロックを勝ち抜いたチームによる白熱した試合が展開。YMCAに連なる会員、ボランティアリーダー、学生、留学生など、普段顔を合わせる機会の少ない人たちが共にプレーを楽しみました。優勝は「ジョンソン・ブルー」(ジョンソンコントロールズ株式会社)。

(会員部 小松康広)



↑ソウルから18人、台北から20人が来日。

→グランチャ東雲で、YMCAの「健脳体操」を体験するSTT参加者たち。



【基調講演】

前アジア・太平洋YMCA同盟総主事 山田 公平さん

私は40年以上に渡りYMCAに従事し、昨年引退しました。次の目標は、自らの高齢者としての暮らしを豊かにすること、そしてそれを支える力強いコミュニティ作りのために働くことです。

高齢人口の増加と労働人口の減少は、今や東アジアにおける共通の課題です。日本は2007年に全人口に占める65歳以上の割合が21%を越え「超高齢社会」へ突入しましたが、2050年までには東アジアの主要な国々において高齢化率が30%を上回ると予想されています。高齢者に対する現役世代の人口比率は1:1.2となり、これではとても社会保障制度が追いつきません。

こうした変化に対応するためには、力強いコミュニティの形成が必須です。このとき要となるのが、一人ひとりの意識の改革です。たとえば、今は病院や施設で死ぬことが多いですが、高齢者が激増すれば、その固定観念を見直す必要も生じるでしょう。もしも病院ではなく、コミュニティの中で死を迎えようとするならば、一人ひとりが豊かな生を全うするための土台となる、力強いコミュニティ作りへの参画は欠かせないものとなります。実際、顔見知りと相互扶助の関係が強化されれば、誰もが最期まで「自立」と「自律」を保って生きることができそうです。

同時に、ボランティアの発掘と育成も欠かせません。例えば定年退職した高齢者の3分の1がコミュニティの働き手となれば、未来は先行き不安なものではなくなります。持続可能なコミュニティのため新しい社会・経済を発展させることも一案です。「シェア金沢」や米国アリゾナ州の「サンシティ」など、モデルとなる事例もあります。意識の面でも、仕組みの面でも、私たちは大きな変革を迫られることになりますが、その先にある社会は、より豊かな社会であると私は信じています。

YMCAは地域に密着して活動する団体です。精神性の充実を大切にします。そこにはたくさんのボランティアが集います。高齢社会への不安が高まる中、YMCAが果たすべき役割も大きいでしょう。

ソウル・台北・東京 指導者協議会 (STT) 高齢社会でのYMCAの役割 学ぶ

11月30日から12月2日の3日間、都内のホテルを会場に「第19回ソウル・台北・東京YMCA指導者協議会(STT)」が開催されました。これ

は1978年に東京YMCAの提唱で始まった国際会議で、今年で38年目を迎えます。アジアの3大都市YMCAが直面する共通の課題について協

議し、ビジョンを共有することが主な目的で、今年入れを担当。「高齢社会

におけるYMCAの役割」をテーマに、基調講演や施設見学、各種の報告や都内観光等を通じて、YMCAに連なる同志としての学びと相互理解を深めました。継続参

加の会員も多く、再会を喜び、一緒に故郷の歌を歌ったりする場面もありました。食事と学びを共にすること、継続すること

もまた、互いの距離を縮め、大きな課題解決に向けた連帯の礎となることを再確認し、閉会式では2年後のソウルでの再会を約束しました。(国際協力部 日野枝里子)

熊本通信

ー 現地に派遣中のスタッフより

10月31日午前10時、熊本YMCAが運営を任されてきた「益城町総合体育館」と「御船町スポーツセンター」の避難所が閉鎖されました。

これまで関わってきた熊本YMCAのスタッフは、大きな事故もなく無事にこの日を迎えられた安堵感と、避難者も含め、これまで思い出を共有してきた仲間たちと離れる寂しさに包まれていました。

しかしそんな気持ちも、押しかけてきた大勢のマスコミの波に押し流されていった気がします。誰もいなくなった夜の体育館は、不気味な無機物と化していました。

この日を無事に迎えられたのは、多くの方々の尽力によります。一人ひとりの置かれた状況や、直面している問題を聴き、行政も私たち職員も共に何ができるか、どうしたら良いかと、一生懸命考え動きました。行政の皆さんは保健センター、地域包括、福祉課、復興対策チームなど、あらゆる情報を集めて一人ひとりの課題に向き合ってくれました。そして



誰もいなくなった避難所(益城町)←

熊本YMCAの職員は、全国から駆けつけたYMCAスタッフや学生、ボランティアリーダーたち、また賛育会や医療ソーシャルワーカー協会、そしてJDF(日本障害フォーラム)など他団体の協力を受けながら、互いに出来ることを考えました。避難者に次の身の寄せ所が見つかること、片付け、引越など、できることは何でもサポートしました。本当に頭の下がる思いです。

これで支援の対象は、避難所から仮設住宅(みなしも含む)や在宅避難者に移ります。その際のキーワードは「住民主体」。引き続き皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。

(東京YMCA職員 秋田正人)

子育てコラム



幼児教育は街づくりの核、生き甲斐の根拠

▽江東YMCA幼稚園のケーススタディ

戦後まもない1951(昭和26)年、育心保育園を引き継ぎ、東京YMCA江東プラザが保育園を開設。後に「江東YMCA幼稚園」となる。YMCAが江東区石島に開設された当初より、熱烈な支援が起こつた。園の至近に位置する清水井商店役員の西田正三氏は、初代

マ江東YMCA幼稚園のケーススタディ

戦後まもない1951(昭和26)年、育心保育園を引き継ぎ、東京YMCA江東プラザが保育園を開設。後に「江東YMCA幼稚園」となる。YMCAが江東区石島に開設された当初より、熱烈な支援が起こつた。園の至近に位置する清水井商店役員の西田正三氏は、初代

東京江東ワイズメンズクラブ会長として、近隣にYMCA幼稚園の良さを広めた。また現学校法人東京YMCA学院評議員の香取良和氏の岳父杉岡勇氏は、自身が経営していた珠算塾の一部をYMCAの活動として移し、経営を応援した。こうした支援事例には事欠かない。

▽江東YMCA幼稚園は地域の人の生き甲斐になった。1956年8月、幼児キャンプの先駆けとして、当時としては大胆な「観音崎幼児キャンプ」を、保育園児等34名で行った。保育者とボランティアリーダーが協力して保育に当たる、その可能性を示した。先駆的取り組みと地域の関わりを両輪として運営される江東幼稚園は、石島および近隣地域から評価さ

れ、地域に多くの卒園児家庭網を形成した。石島町会長太田政夫氏は幼稚園2期生。千田通りの「トンカツ一松」のマスター松浦宏氏は3期生。「白木蓮」(母の会「虹の会」の役員経験者の会)の初代会長である矢野照子氏は、「この幼稚園が良いか」と聞かれれば「YMCAしかない」とアドバイスし、何人も推薦くださった。地域貢献で褒章も受賞されている。学校法人東京YMCA学院を託されて「良い幼児教育は街づくりの核であり、人が地域に住み続ける生き甲斐の根拠」と確信している。

湯浅 慶

(学校法人東京YMCA学院 学院長)



日本 Y M C A 大会に300人 ユースが活躍する社会に向けて



全国の Y M C A から会
員やボランティア、学
生、職員などが集まる
「日本 Y M C A 大会」が
10月8日～10日、御殿場
の東山荘で開催され、3
14人が参加しました。
第19回となる今回のテ
ーマは「ユースエンパ
ワメントを加速する」私
たちの活動が社会を変え
る」。若者の活躍を推
進しようとする世界の Y
M C A の動きに沿ったも
のとなりました。実際に
世界同盟やアジア同盟で
は、「チェンジエージェ
ント」や「ユースレブ
ス」として各国から若者
を選出し、各種の任務を
担わせることによって具
体的な活躍を促進する動
きがありますが、今大会
でもそれに携わるユー
ス等が企画・運営を担
当。また全参加者の約半
数が35歳以下
となるなど、
「ユース」に
焦点を合わせ
た大会となり
ました。
基調講演に
は「Wake
Up Japan」
代表の鈴木洋
一さんを迎
え、社会を変
え、社会を
つぎを
つぎに
集ま
る。な
にん
だ。
会ス
ン
流
ー
プ
交
ユ
ン
案

全国的にはまず自らが
動くことが大切だとのお
話に、多くのユースが勇
気づけられました。その
後、グループでの話し合
いや、多世代での話し合
いを行ない、社会や Y M
C A におけるユースエン
パワメントについて議論
を深めていきました。
開会・閉会のセレモニ
ーは「ドラムサークル」
の手法を取り入れ、参加
者全員が同心円状に座っ
てドラムやマラカスなど
の楽器を打ち鳴らし、会
場全体で一体感を得まし
た。礼拝では、広島女学
院大学チャプレン澤村雅
史さんより、「何の役に
立つか分からなくても、
チャレンジできることが
ユースの強みである」と
お話いただきました。夜
にはプロのアーティスト
によるジャズライブが行
われるなど、楽しい企画
も満載。充実した学びと
交流の会となりました。
(日本 Y M C A 大会運営
委員/東京 Y M C A 職員
永岡美咲)

「わいわいハロウィン in しのめ」 親子800人超が参加

江東区の湾岸に位置す
る東雲（しのめ）地域
には、東京 Y M C A が運
営するオリーブ保育園、
キャナルコート保育園、
グランチャ東雲、しのめ
めども園、東雲児童
館、児童館学童クラブ、
第二学童クラブ、第三学
童クラブ、東雲ファミリ
ーセンターがあります。
それらが連携をして、Y
M C A が東雲地域全体の
活動の一翼を担おう、子
どもたちにとっての「東
雲地域の故郷作り」をし
ていこうと、昨年より合
同で『わいわいハロウィ
ン in しのめ』を開
催しており、2回目とな
る今年は10月26日に行
いました。

秋晴れのもと、様々な
仮装をした乳幼児から小
学生まで627人の子ど
もとその保護者237
人、合計864人が参
加。スタッフを含めると
977人と、昨年より2
倍近くの大イベントとな
りました。参加者たち
は、保育園など4つの施
設を回り、お楽しみグッ
ズを集めました。
出迎えた職員も力を入
れて仮装。子どもが泣き
出すほど怖いメイクや、
お化け屋敷なども登場
し、大人も楽しめる内容
となりました。保護者か
ら「各地でハロウィン
のイベントが行われてい
るが、小さい子どもが安
心して楽しく参加できる
のは Y M C A ならでは。
ありがたい」という声が
多く聞かれました。「来
年も違う仮装で参加する
ね」と早くも来年の仮装
を考える小学生など、こ
のイベントへの期待が膨
らんでいるようでした。
(東雲児童館館長
波多啓造)

今回の大会では、「ユ
ースエンパワメント」と
いう一つのテーマについ
て、全国から集まったユ
ースとシニアが3日間に
わたってディスカッショ
ンを行いました。私はその
グループディスカッショ
ンに、ファシリテーター
(進行役)として参加。
グループのメンバーが、
より「本音」で語り合え
る空間にしたいと願い、
役に徹しました。

まずは同世代のグルー
プでの話し合いの後、他
の世代のグループ発表を
聴くなどして議論を深
め、今の社会の課題や向
き合い方、未来に向けて
の方向性などについて多
くの意見を交換。それぞ
れの立場で「ユースエン
パワメント」について考
えることができました。
議論の中では、思いが込
み上げ涙ぐむメンバーの
姿もあり、さまざまな気
持の共有ができた時間
となりました。

私は、この大会を通じ
て「ユースエンパワメン
ト」とは、「ユース世代
が自らの可能性を信じ、
よりよい社会に向けて日
常の中で小さなアクショ
ンを起こしていくこと」
だと受け止めました。そ
して、その小さなアクシ
ョンを起こすための原動
力は、自らの心の奥から
発する「欲求」であり、
さらにその思いを仲間と
共有することによってア
クションのきつかけがで
きることに気づかされま
した。子どもたちの未来
のために、今、私ができ
ること、を、あきらめず
に取り組む続けていきたく
と思います。

職員／芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ

永山 理奈

職員／芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ

永山 理奈

職員／芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ

永山 理奈

職員／芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ

永山 理奈

職員／芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ

永山 理奈

職員／芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ

永山 理奈

職員／芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ

永山 理奈

職員／芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ

永山 理奈

職員／芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ

永山 理奈

職員／芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ

永山 理奈

シリーズ
資料室の窓から(96)
国民精神総動員下の
東京 Y M C A
斉藤 實
本会元副総主事

「2025年以降、
自国の領域内における
外国軍基地、軍隊及び
施設は許可しない。こ
の改正された憲法の規
定に反する他国との取
り決めはすべて破棄す
る。そのための憲法判
断は最高裁判所がおこ
なう。核兵器の製造、
保有、自国の領域内の
通過と、原発の稼働は
許可しない。」(矢部
宏治著『日本はなぜ戦
争ができる国になった
のか』より)
さまざまな新たな事
実を私たちに示してく
る矢部宏治さんは著
書の中で、「憲法の条
文の削除は歴史そのも
のの削除であると言
っています。改憲する
とすれば加憲が良いと
安倍首相は野党の質問
に答えて「単なる条文
の整理にすぎない」と
説明していますが、基
本的人権という重要な
テーマを「整理」して
よいのでしょうか。
改憲論議では9条が
自国の領域内に米軍
(総主事 廣田光司)

会員 誓約
一、我等ハ皇國ノ必勝ヲ
祈念ス
一、我等ハ各々其職域ニ
邁進ス
一、我等ハ進シテ國土ノ
防衛ニ萬全ヲ期ス
一、我等ハ更ニ心身ノ鍛
鍊ヲ期ス
一、我等ハ協力一致以テ
統帥ノ護ヲ全ウス
以上

Y M C A 史学会 9
月例会で、1937
年に近衛文麿内閣が
決めた「国民精神総
動員」下での東京 Y
M C A の身の処し方
を学んだ。大日本帝
国であった時代の施
策が、再びその影に実
態を伴わせるかの如き
姿を濃く始めたよう
に感じている。今、
この国の政治
が、日本 Y M C A を
「支配した」その方法
の實際を学んだ。今
や、物騒な世の中とな
ってきた。この国の歩
みは、再現させてはな
らないあの「大日本帝
国」時代を思わせてい
る。古い話ではない。
1943年1月の東京
Y M C A 機関紙巻頭
誓約の下には、年頭あ
いさつ「大東亜十億共
栄の新年」が続く。

注目されますが、自民
党改憲草案では基本的
人権を永久の権利と認
めた現憲法の97条を削
除しています。国会で
安倍首相は野党の質問
に答えて「単なる条文
の整理にすぎない」と
説明していますが、基
本的人権という重要な
テーマを「整理」して
よいのでしょうか。
改憲論議では9条が
自国の領域内に米軍
(総主事 廣田光司)